**令和六年　第二十六期くまもと俳句ポスト**

**第二十六期開函**

**「霏霏Ⅱ」編集事務局　　西口　裕美子　選**

**特選**

その中に嬰抱く羅漢冬ぬくし　　　　　　　　熊本県合志市 髙村　聖惠

**【講評】**

雲巌禅寺から霊巌洞に至る斜面に在す五百羅漢。かなり摩滅しているが、様々な表情を見ることができる。静かだ。寒さが続く中、ふと暖かい日が訪れる幸せを表わす「冬ぬくし」。この季語が、そこここに在す羅漢たちの拡がりまでも見せる。「その中に」嬰を抱いたように見える羅漢様を作者は発見したのだろう。もしかすると、かつて自分を抱いてくれた父の姿を見たのかも。陽の当たる幸せを改めて思う作者の心が察せられる愛の一句。

**わが輩通り賞**

阿蘇五岳表も裏も小六月 熊本県熊本市 佐藤　誠吾

**入選**

コーラスの声澄む城趾球湲忌 　　　　 熊本県熊本市 山﨑　綾子

猫座る漱石の家秋深し　　　　 熊本県熊本市　　　 小山　禎子

西南の役の弾痕秋暑し　　 岐阜県岐阜市　　　　 笠井　智子

**佳作**

蝉時雨八雲呼び立ている如く 　 　 熊本県熊本市　　　　 矢野　友子

冬日さす城の長塀鳩群れて 　　　　 熊本県熊本市 坂口　美穂子

錦秋や小国に博士の顕微鏡　　　　　　　　　熊本県熊本市 後野　陽

父の来し道をたどりし秋の島　　　　　　　 山梨県南都留郡 志賀　奈都

名月に濡るる天守の甍かな　　　　　　 熊本県熊本市　　　　 芥川　卓

空港へ送り届けて夏終る 　　　　　　　熊本県熊本市　　　　 中村　和徳

秋麗の旧居の庭猫闊歩せり 熊本県熊本市　　　 岩木　靖子

彼岸花に誘われ植木の湯に一日　 熊本県宇城市 永井　弘子

吾になほ空蟬剥がす力あり　　 広島県広島市 前田　節

赤とんぼ息子を想う水前寺　　 福岡県春日市 浦田　啓子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 投句総数　　百四十五句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市内　　　　五十七句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市外　　　　八十八句

開函日　令和六年十二月三十一日